

～高崎さんからのメッセージ～

今回のお絵描きをおして、私たちは本当に一人ひとり「ちがう」存在ということを実感していただけたのではないのでしょうか。同じような絵を描いた人もいれば、全然違う絵を描いていた人もいたと思います。その絵は「男の人」だとかいう絵、「女の人」だとかいう絵、「子ども」だからこういう絵、「大人」だからこういう絵というふうにはなっていないと思います。描いた絵は「あなたがあなただった」から描いた絵です。それが一人ひとりの「個性と能力」です。性別や年齢にかかわらず一人ひとりにあるんです。

私たちは地域や学校などで生きています。それぞれの場所で「ちがう」を生かしていくことが大切です。「ちがう」が源泉となり、地域や学校などでの課題を解決するための知恵や力を生み出していきます。知恵や力は「かかわり」の中から生まれるといわれています。「かか

わり」の中で大切なことは「人権」です。人権を考えていく上で、私たちの社会が乗り越えていかなければならないのは「男だから、女だから」というような性別や年齢などによって役割が決められている現状です。一人ひとりが持つ個性や能力を存分に生かしていけるよう、自分の事も大事にしながら、他の人も尊重して行ってほしいです。

みなさん一人ひとりの意識が変わり、意識が変わることで行動が変わります。行動が変わることで、地域や学校などの在り方が変えていけるということをみなさん一人ひとりの胸に刻んでほしいです。



描いた絵を見せ合ってお互いに感想を言おう



絵を描いているときはどんな気持ちだった？



みんなが描いた絵を見てどう思った？



ワークショップに参加したみんなの感想

ときどき友だちに、強くちがうよと言う時があったけど、今日でなおそうと思いました。(2年生)

みんなちがう。分かっていてもうまく受け入れていない自分がいました。今回のワークショップを实际聞いて、「そうか、子どもに対する違いを忘れていたな～」と思い直しました。1メッセージはどんどん伝え、みんなと交わり合う楽しさをこれからも感じたいと思いました。(保護者)

「わーぜんぶちがうね」みんなて絵をみせあたら雪たまるまみたいなものもあれば、二重丸をかいている人もいた。みんなそれぞれの絵だったけど、それがみんなの世界みたいなものなのかなと思った。みんなそれぞれでいいと思いました。(5年生)

教師としても、母としても、子どもたちには多様な考え方があること、それをみんなが認めてあげること、そして自分も認められる存在であることなどを伝えていけたらと思います。(教職員)

「みんなちがってみんないい」という文が好きになりました。一緒の人なんていないから一人ひとりがいいんだと思います。(6年生)

グループの人といっせいに絵を見せ合って、見たときにみんなそれぞれ違った絵を描いていて、同じことを言われてもみんなとらえ方が違うことに驚きました。(4年生)

同じ事を聞いているのに、人の数だけ考えがあるということに改めて気づかされたお話でした。(保護者)

いちばん心に残ったのは、わたしたちはちがいをこわがっているということです。私は発表が少しにがてです。わたしはちがいをこわがっているのかもしれないので、こわがらずに発表していきたいです。(3年生)

一人ひとり考え方が違って当然で、一人ひとり違うから面白いんだなと思いました。自分の子どもにも「こうあるべき」、「こうすべき」を押し付けず、良いところをたくさんほめてあげようと思います。(保護者)

1メッセージでの言いかえを子どもに伝えると、自分たちだけでけんかを解決できることが多くなりました。1メッセージで伝えると、子どもたちが素直に動けるようになりました。伝えたいことは同じでも魔法の言葉だなと思います。(教職員)

同じ絵を描いている人もいれば違う人もいて、それぞれ考えることが違ったので面白かったです

みんな楽しく絵を描いたのでよかったです

みんなそれぞれ違うけどきれいでした



みんなそれぞれの絵を描いていて、面白いのやおかしなものもありました

絵を見せ合ってみると、一人ひとりそれぞれ違った絵を描いていたと思います。全く同じ絵を描いた人はいませんでしたよね。「みんなの絵が『ちがう』ことが面白かった」と勇気をもって、手を挙げてみんなに教えてくれてありがとう。

話し合ったことを発表しよう

